

千厩分教室 小学部・中学部グループ

1 研究主題

学びを実生活に活かす授業づくり ～子どもの次のステージを想像して～

2 研究テーマ設定の理由

本研究グループの児童生徒は、千厩小学校・千厩中学校各校内に学びの場がある児童生徒たちである。小学部(ハピきら)を卒業した児童は中学部(みなトモ)へ進学し、みなトモを卒業する生徒は本校舎高等部または他校へ進学するケースが多い。そのような流れの中、学びの連続性が途切れてしまわないよう、また、児童生徒がこれからの生活においてより主体的に取り組むことができるために、それぞれの次のステージ(小学部では中学部での生活を想定、中学部では小学部で培った力を伸ばしながら高等部での生活を想定)でどんな力を身に付けるか、一人一人の実態をあらためて把握し、今ある姿と目指す姿を共通理解して、児童生徒の可能性をさらに広げる意義のある授業実践を目指していきたい。

3 推進計画

1年次目の研究推進計画について示す。

実施時期	形態	内容	備考
4/21	全職員	第1回全体研究会	・職員会議内で実施
5月	学部毎	千厩分教室の学部テーマ等についての確認	・テーマ、設定理由、研究計画について学部毎の検討→小・中の研究部員で再検討する
6月	学部毎	個々の実態把握と仮説を立てる	・個々の実態把握と身に付ける力の仮説を一覧にする
7月～	学部毎	授業実践	・実践の様子を評価し、改善点等を検討する
12月	学部毎	研究授業、授業研究会	・全校に周知して取り組む
1月	学部毎	1年次のまとめ	・学部毎→グループとしてまとめる
2/14	全職員	第2回全体研究会	・職員会議内で実施

4 授業(研究)実践 ☆ハピきら(小学部) ★みなトモ(中学部)

(1) 実態把握と身に付けたい力の仮説を立てる

☆個々の実態を把握し、身に付けたい力・目指す姿についてアンケートを実施し、結果を共有した。『学びを実生活に活かす』ことについては、児童が今もっている知識や能力に、新しく学習した知識や身に付けたことを結び付けたり、つなげたりすることで場面が変わっても表出できるようになると考えた。それは、学習したことが様々な生活場面や次のステージに活かす力となるだろうと仮説を立てた。

★担任を中心に個々の実態を挙げてもらいまとめた結果、コミュニケーションに関わること、身辺自立や体の使い方など、課題と思われることが多く挙げられた。そのような中で共通して考えられた課題は、他者と関わるときの態度(聞く、話す等)についてであった。それらを重点的に取り組むことで、主体的に周りに関心をもったり、積極的に関わったりする力が身に付くだろうと仮説を立てた。

☆身に付けたい力、目指す姿の共有(アンケートの結果)

- ・「見る」「聞く」「話す(伝える)」力
- ・困ったときに発信できる力
- ・あいさつ
- ・集団に参加し、共に活動する力
- ・人と関わろうとする力、関わられる力
- ・きまり、ルールを知る、理解する、守る力
- ・集団を意識した行動、周囲に合わせる力
- ・自分でできることに向き合って活動に参加したり、取り組んだりすること
- ・(支援を受けつつも)自分でやろうとすること
- ・自分で考えて行動すること
- ・一人のできることを増やす
- ・身辺自立、自分のことは自分でできる

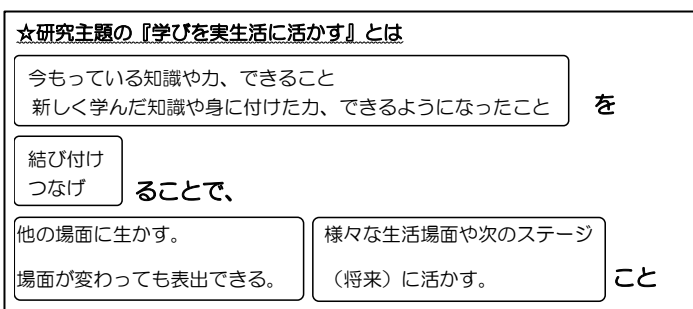
★身に付けたい力、目指す姿の共有(アンケートの結果)

- ・他者と話し合う、協力し合う
- ・場に合った言葉遣い、表現方法
- ・聞く態度(場の雰囲気を読まない等)
- ・他者を思いやる
- ・積極的に取り組む
- ・発表の経験を重ねる
- ・相手に伝わるように表現する
- ・困ったときに助けを求める
- ・アドバイスを受け入れる
- ・生活経験の拡大
- ・会話、質問の幅の増大
- ・時間やチャイムを意識して行動する
- ・獲得語彙を増やす
- ・身だしなみ、衣服の調節
- ・食事のマナー
- ・体力向上、姿勢の保持
- ・ボディイメージ(歩き方等)
- ・自分でできることを増やす(一人での活動場面を増やす)
- ・イライラしたときの対処法を見つける。気持ちの安定
- ・集中できる時間を増やす

(2) 授業実践

☆教師間で共有した『身に付けたい力・目指す姿』を意識しながら授業実践を行った。特に、《見る・聞く・話す(伝える)》《集団の中で自分の役割に取り組む(取り組もうとする)》ことに重点をおいて授業実践、振り返り、改善を行った。

★はじめに、年度始めから取り組んできた授業の様子を振り返り、職員間で生徒の実態と実践している授業について検討した。その後、仮説を元に授業の改善点を検討して共通理解し、授業実践や振り返りを行った。



☞このような考え方をイメージして授業実践に取り組んだ

(3) 研究授業、学部研究会

☆12月8日(木) 生活単元学習「さぎょう」「すりっぱーず」、研究会も同日実施した。

研究授業①生活単元学習『さぎょう』（ペットボトルリサイクル）授業者：小野寺伸 他1名

【実生活に活かすことができるようになるための手立て・知識をつなげるための手立て】

①共有化	・一緒に活動しているという実感がもてるように各工程2名以上配置し取り組む。
②場の設定	【ラベル剥がし】・ラベルとキャップを入れるごみ箱と剥がし終わったペットボトルを入れるケースを用意し分別できるようにする。 【水洗い】・動線がスムーズになるように、ケース2つを縦に並べる。
③視覚化 見通し	【ラベル剥がし】・ペットボトルがなくなったら置き場から持ってくる。タイマーが鳴るまで活動する。 【水洗い】・すすぐ回数は10回。洗うペットボトルがなくなったらラベル剥がしのところから持ってくる。タイマーが鳴るまで活動する。
④焦点化 絞り込み	【ラベル剥がし】・キャップを取る。ラベルを剥がす。ケースに入れる。 【水洗い】・水を入れる。振る。水を捨てる。ケースに入れる。
⑤スモール ステップ	【ラベル剥がし】・剥がし口を確認できるようにする。 【水洗い】・水を入れる。振る。水を捨てる。ケースに入れる。
⑥刺激量	【ラベル剥がし】・剥がし口を確認できるようにする。 【水洗い】・教師と一緒に一つ一つ確認。足並みをそろえて行う。
⑦ルールの 明確化	【ラベル剥がし】・ラベルの剥がし残しやキャップの取り忘れがないか目で確認してケースに入れる。 【水洗い】・水の量は半分以下。10回程度振る。すすぎ後、逆さにしてケースに入れる。

【授業研究会・協議の記録】

【協議の柱①】児童の次のステージや将来の生活に必要な力が身に付くような指導内容や支援方法であったか。		
良い点・よかった姿	改善点・アイデア	その他
<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割を分かって自然に動いている。 理解して活動している様子から、活動内容や支援方法が実態に合っている。 作業そのものだけでなく、分からないことを質問することができている。（身振りなど、自分なりの方法で） 友達を意識して活動していた。 途中で活動が変わっても、分かって行動できていた。 1時間の活動の流れについて児童が理解しているため、自分から動こうとする場面が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生なので、お楽しみ的な要素があってもよい。（段階に合わせて、働く姿勢、楽しむ姿勢を育てていく） 処理したペットボトルの量が分かると達成感がありそう。目で見て分かるような工夫があるとよい。 振り返りの場面も、みんなで集まって確認し合うことが楽しそうに見えたので、今後も継続できるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> さぎょう＝作業ではない。児童の実態に応じて取り組みやすい活動内容を設定し、児童が一人でできるように工夫をする。児童が一人でやろうとすることが将来の力になると考えている。 繰り返しの活動は、児童が活動に見通しをもつことにつながり、自ら行動することにつながる。 児童と教師の普段からの関わり合いが和やかであることが感じられた。

【協議の柱②】実生活に活かすことのできる学びになっていたか。		
良い点・よかった姿	改善点・アイデア	その他
<ul style="list-style-type: none"> 本人なりの言葉で分からないことを聞くことが、将来の生活につながっている。 家庭で実際にペットボトルのラベルを剥がしている。場面が変わっても学んだことを実践できている。 	<ul style="list-style-type: none"> みなトモで、話を聞くことを頑張っている。指示を聞いて、その通りに作業すること、分からないときに聞くことは今後も継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 困ったことがあったら、自分から伝えたり、助けを求めたりする力は将来必ず必要になる。（自分なりの方法で、人が変わっても、環境が変わっても）

<ul style="list-style-type: none"> 『話を聞く』→この時間だけではなく、他の時間も含めて行われていることがよい。 誰とでも活動ができる。 人の役に立つこと（仕事や係）が学習内容となっていたため、自分のやったことが周りの人に喜んでもらえるという経験を積むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 少しずつ集団を大きくしたときの、主張と抑制。 取り組んでいることについて、「〇〇先生も喜んでたよ。」など、第三者からの感謝の言葉を積極的に分かりやすく児童に伝えることを日常的に行うと、さらに嬉しい気持ちで活動できるのでないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 『自分の困ったことがあったときに Help を出す方法』を身に付けることは、成長していくうえで本当に大切なことだと感じた。
---	--	---

【児童の変容】

- 水洗いでは、全員ペットボトルをケースから2本ずつ取り、1本は手洗い場の鏡の前において効率的に活動している。
- 自分からケースを持って手洗い場に向かうようになった。活動の流れなどが分かり、自分から取り組んでいる。
- 家庭でもペットボトルのラベルを剥がすようになった。

研究授業②生活単元学習『すりっぱーず』（スリッパ拭き） 授業者：齋藤貴子 他3名

【実生活に活かすことができるようになるための手立て・知識をつなげるための手立て】

①共有化	<ul style="list-style-type: none"> スリッパ拭きを皆で一体となって取り組んでいることが実感できるように、ぬれぞうきんで拭いてから、乾いたぞうきんで拭くという、工程を明確に行う。 共に活動していることを意識したり、友達と切磋琢磨しながら気持ちを高めたりできるように、各工程2名以上配置する。
②場の設定	<ul style="list-style-type: none"> 志気を高めながら活動できるように、友達と向かい合って取り組む。 活動への意欲が高まるように、友達と友達の間で活動する。 いつも通り活動することができるように、同じ機の配置や同じ活動の流れにする。
③視覚化 見通し	<ul style="list-style-type: none"> スリッパ拭きの工程は、始めにスリッパの表、裏、中をぬれぞうきんで拭き、次に乾いたぞうきんで拭いている。また、バケツ、ぞうきんの準備、スリッパの回収と返却、職員室への挨拶をする係の仕事を担当して行っている。 仕事への見通しをもてるように、活動の流れを一定にする。
④焦点化 絞り込み	<ul style="list-style-type: none"> 係の仕事を安心して、正確に達成することができるように、内容は変えずに取り組む。
⑤スモール ステップ	<ul style="list-style-type: none"> 事前に目標を確認し、前回授業と比較しながら目標を決めて毎時取り組む。
⑥刺激量	<ul style="list-style-type: none"> 確実に目標を達成して給料をもらうことができるように、事前に教師と相談して目標を決めたり、毎時同じ目標で取り組んだりするなど、実態に合わせて目標設定する。
⑦ルールの 明確化	<ul style="list-style-type: none"> 授業の終わりに即時評価する。お給料（基本給10円）で、その時間の目標達成を確認する。10円とお菓子1つ交換することができる。

【授業研究会・協議の記録】

【協議の柱①】児童の次のステージや将来の生活に必要な力が身に付くような指導内容や支援方法であったか。		
良い点・よかった姿	改善点・アイデア	その他
<ul style="list-style-type: none"> 役割を固定し、実態に合った指導が行われている。 自分の役割が分かっている、落ち着いて集中して取り組んでいる。 流れ作業で繰り返し取り組んでいるところがよい。 活動の見通しをもてることで、目標を意識して活動ができる。 給料を意識できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続して取り組むことは、『これができる！』という強みになる。 前時の取り組み（お給料の額やその理由）を図やイラストなどで残しておくことで、自分の振り返りをしやすくなる児童がいるかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> クラスの児童の実態に合わせて、同じように見える活動でもねらいを変えていること、それを教師が共有しているところが授業の充実につながっている。

<ul style="list-style-type: none"> それぞれの児童が自分の力を発揮しやすい場や人の設定がされていることで、全員が自分なりに『できた!』と思える活動になっている。 		
--	--	--

【協議の柱②】 実生活に活かすことのできる学びになっていたか。		
良い点・よかった姿	改善点・アイデア	その他
<ul style="list-style-type: none"> お給料制度が活動のモチベーションや意欲につながっている。 自己評価と他者評価を行っていることがよい。 座らずにしゃがんだ状態で活動する。ぞうきんを広げて干す。など、学校生活の中で活かされている。身に付いてきている。 繰り返しの活動で、自分から行動できる。 生活の中の身近なものや場所をきれいにするという活動は、他の場所でも取り入れやすく、話題にしやすいものだと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動や役割が変わったときの気持ちの切り替え。 お給料がお菓子に変わるところが、児童にとっての『働くこと』への理解のスタートになっている。児童によっては、『お菓子』が別のこと（ポイントや活動など好きなこと）に変化していくことも今後必要になってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に『分かりやすさ』が活動への参加のしやすさにつながっている。先生方のチームワークもメリハリがあつてよい。

【児童の変容】

年度始めは、教室移動や児童、教師の変更があり、児童にとっては落ち着かないまま授業が始まった。それでも、自分から進んでスリッパ拭きに取り組み、友達や教師と最後まで活動することを目標とした。その手立てや支援として、自分から行動することができるように、のびのびタイムの内容を曜日で固定することで、子ども達は見通しをもてるようになり、比較的安定した気持ちで活動に参加できるようになった。次第に机の配置や準備・片付けまで児童自身で取り組むことができるようになってきている。

【助言】（佐々木副校長）

- いわての授業づくりの3つの観点を意識し、活動内容の工夫や教材の準備など、とても丁寧な授業である。
- 学習評価の3観点の『思考・判断・表現』について、表出しない部分があっても内面で育ってきているように感じる。継続していくことが大切である。
- 児童が授業後にどうなってほしいかの見通しをもつこと、将来こうなって欲しいという見通しをもつことが重要である。

★12月12日(月)日常生活の指導「朝の会」・特別活動「みなトモ集会」研究授業実施

「朝の会」(日生)、「みなトモ集会」(特活)略案	
	日 時 令和4年12月12日(月) 場 所 みなトモ教室 指導者 小野寺薫(T1)、小野寺さ(T2)、 及川(T3)
1 目標	<ul style="list-style-type: none"> 話をする姿勢、話を聞く姿勢を意識して参加する。 聞いた内容を理解したり、わからないときは質問をしたりすることができる。 聞く人に伝わりやすい速さや声量を意識して発表することができる。 友達の発表を聞いて質問をすることができる。

2 学習の流れ

時間	学習内容・活動	指導上の留意点等	準備物
9:05 ～ 9:15	<p>・当番が次第に沿って進める。</p> <p>【朝の会】次第 司会()</p> <p>① あいさつ</p> <p>② 健康観察()</p> <p>③ 今日の予定()</p> <p>④ 今日の給食()</p> <p>⑤ 先生から</p> <p>⑥ 終わりのことば</p>	<p>・T 1は教室前方で支援。全体掌握と「先生から」の担当であることが生徒にわかるようにする。</p> <p>・T 2, 3は教室後方で支援。「健康観察」をゆっくりはっきり話すよう見守り、必要に応じて声掛けをする。</p> <p>・「今日の予定」「今日の給食」はそれぞれ自席で発表するようにする。</p> <p>・漢字が読めないときは、自分で周りに助けを求められるよう促す。</p> <p>・「先生から」は、話を聞く姿勢が整っているか確認してから話す。</p> <p>・必要な連絡に限らず、生徒が興味を持てるような話題を提供する。</p>	<p>・次第</p> <p>・健康観察カード</p> <p>・ホワイトボード (予定、献立)</p>
9:15 ～ 9:45	<p>・当番が次第に沿って進める。</p> <p>【みなトモ集会】次第 司会()</p> <p>① はじめのことば</p> <p>② 日記発表</p> <p>③ 先生から</p> <p>④ 終わりのことば</p>	<p>・T 1は教室前方で支援。全体掌握と「先生から」の担当であることが生徒にわかるようにする。</p> <p>・T 1, 2は教室後方で支援。「日記発表」の前にT 1がルールの説明をする。</p> <p>・「先生から」は話を聞く姿勢が整っているか確認してから話す。</p> <p>・話を聞いているか質問を交えながら話す。</p> <p>・電子黒板で提示し、全員が見えやすい形で提示する。</p>	<p>・次第</p> <p>・日記(各自)</p> <p>・「日記発表のルール」</p> <p>・タブレット端末</p> <p>・電子黒板</p>



日記発表



質問は挙手で

【日記発表のルール】

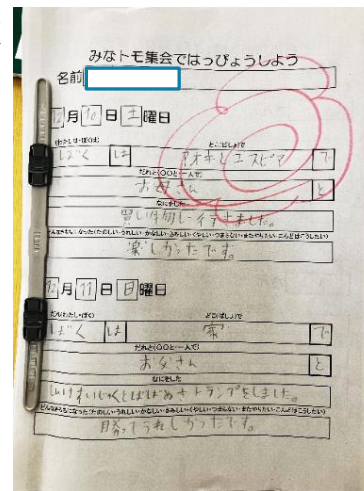
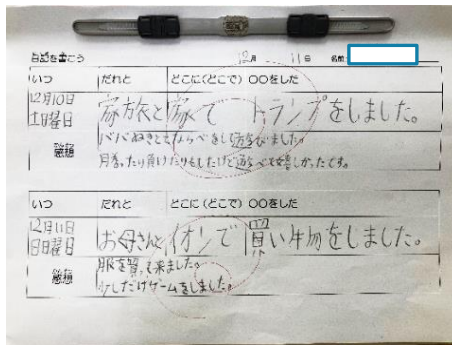
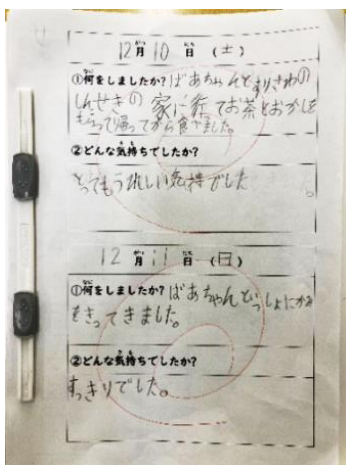
発表する人

- ・はじめとおわりは「礼」をします。
- ・みんなに聞こえるように大きな声で、ゆっくりはっきりと話します。
- ・「質問はありませんか?」と聞きます。
- ・「おわります」⇒礼を忘れずにします。

聞く人

- ・発表する人に注目して聞きます。
- ・挙手をして指名されたら質問をします。
- ・ほかの人と同じ質問をしないように、みんなの話をしっかり聞きましょう。

日記様式(学年毎) 1年⇒2年⇒3年の順



様式が学年毎に異なっていた⇒今後の検討・改善事項のひとつ

【職員揃っての研究会が実施できなかったため、学部会で話題にし、下記の通りアンケート形式としてまとめた。その後、助言をいただいた。】

授業研究会について(⇒各自記入をして12日までに提出ください)

【協議の柱】

★は学部会後に話題になったことや T1 が気付いたことです

- ① 「実生活に生かせる学びが実践されていたか」
- ② 「生徒一人一人がより主体性をもって取り組めるためには、どのような支援方法が望ましいか」

① 「実生活に生かせる学びが実践されていたか」

生徒の様子	改善点など
<p>★欠席者がいたが、当番の生徒は臨機応変に対応できた。(Sさんが欠席のため健康観察をYさんをお願いした)</p> <p>・質問した人が、答えてもらった後に「ありがとうございます」と言っていた。</p>	<p>★生徒によっては欠席者の対応に戸惑う場合も想定されるので、困った時にどうすればいいか考える力や知識が必要。</p> <p>・”教えてもらったらありがとう”が全員に浸透するといったと思った。普段の生活でも大切だと思う。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ドリップニュースはわかりやすいし、興味を持ってきている様子だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で話題になっていることを触れるのは良いことだと思う。生徒の様子からも今後継続していったよいのではないか。
--	---

②「生徒一人一人がより主体性をもって取り組めるためには、どのような支援方法が望ましいか」

生徒の様子	その他、改善点など
<ul style="list-style-type: none"> ★日記発表の場面で、進んで挙手する生徒が限られている。 ・「どこ」「なに」という質問に対しても、「場所」「物」ではなく(例えば)「人」など答える。 ・発表の仕方に課題はあるものの、「自分も発表する」「質問する」ということに慣れてきていて、前期とは違う様子が見られる。 ・質問に対して答えるのが難しい生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★順番をあらかじめ決める、原稿(日記)の様式が学年によって違うので統一する等。 ・5W1H に対する答え方について、一覧表や国語の学習などで取り組めるとよい。 ・IT 間で生徒のねらうところを共有して指導に当たる。話し方、話す内容などが今より分かってくるともっと自信をもって発表することにつながっていくと思う。 ・選択肢があれば答えることができるので、T1 がその場で選択肢を与えてもよい。

※その他、気づいたこと等

生徒の様子	改善点など
<ul style="list-style-type: none"> ★予定や給食を話す生徒は今まで通り前に出での発表でいいのではないか。 ・「先生から」でニュースについての話を真剣に聞いている生徒が半数以上だった。 ・みなトモ集会の「先生から」で使用していたアプリのニュースを生徒全員が集中して見ており、世の中の出来事に興味をもつためにも今後活用してみたいと思った。 ・姿勢やファイルの持ち方の関係で、声が小さく暖房や扇風機の機械音でかき消されてしまう生徒がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ★「先生から」で時間を確保したかったため省略した。掲示が見にくい等があるのであれば従来のものに戻す。 ・時事について触れられる良い機会だと思った。今後も続けてほしい。 ・集会の「先生から」が日程の再確認となる場合が多いので、ニュースアプリや担当職員を決めて、職員の好きなこと、話したいこと、ニュース等を話すのも面白いと思った。 ・T2、T3 が様子を見ながら暖房を止めるなどしてもよいのではないか。

【助言(佐々木副校長)】

- ・目的が何かを明確にすること。例えば「定型でも文章を作ること」や「話し方を身に付けること」など。
- ・例:「日記発表」…①項目の検討⇒「いつ・どこで・だれと・何をした(どこへ行った)」を盛り込む。
 - ②発表の仕方⇒「～をして、～だったので、～でした」と理由も話せるようにする。
- ※目的を達成するために日記の様式を検討したり、家庭で協力してもらったりするように働きかける。
- ③質問者について⇒質問をして終わりではなく、答えが返ってきたら「～だったのですね。ありがとうございます」のようにひとつつけて返すなどすると、話を理解しているのか見極めの一助になるのではないか。

5 実践のまとめ

(1) 成果と課題 (○成果 ●課題)

【ハピきら(小学部)】

- 児童の実態に応じた活動内容を設定し、手立てを工夫することで、児童が役割を理解し、一人でやろうとすることが増えてきた。
- 授業の流れが安定すると、児童それぞれの目標や課題を意識できるようになり、教師の声掛けや指導を一貫して行えるようになった。
- 繰り返しの活動を設定することで、児童のほとんどが活動の流れや自分の役割を理解し、落ち着いて集中して取り組むようになった。
- 学習したことを自然に家庭生活で実践するようになってきた。
- 個々の児童のねらいを教師間で共有することが指導の充実につながった。
- キャリア教育の一環として、家庭においても簡単に実践することができ、自分から進んで継続して行うことが、家庭の一員としての役割を果たすことにつながってくると考えられる。
- スリッパ拭きの活動について「ありがとうございます」と感謝の言葉を直接かけられて実感できる児童と、実感する機会がない児童がいるので、どの児童にも人の役に立っていることを感じる機会を設ける。
- 授業の中で仲間と協力し、人の役に立つ喜びを感じ、最後まで取り組める達成感を味わう場を設定することで、人と共に生きていく喜びを実感、児童の心身が豊かに成長していく機会を今後も設定していく。
- 身に付けたい力の向上を目指し、自己評価や振り返りの工夫が必要である。

- 活動や役割の変更に対応する力、気持ちの切り替え方や楽しみの変化が必要になってくる。
- 場面、人、状況が変わっても学んだことを表出できるような指導や支援を行い、授業改善を継続していく。
- 小学部卒業を意識した授業実践や中学部とのつながりを意識した授業について考えていく。

【みなトモ（中学部）】

- 状況に応じて臨機応変な対応ができた生徒がいた。当日の係が欠席だったため、他の生徒に係の仕事をお願いすることができた。
- 日記発表を毎週経験することで、発表することに慣れてきた。
- 電子黒板に提示することで、注目しようという姿勢がみられた。
- 「DropNews(ドロップニュース)」という配信サービスを活用してニュースを紹介すると、興味をもって見ている様子がみられた。
- 授業の様子を振り返ることで、教師側にも様々な気づきが得られた。
- 困ったときにどうするか、質問されたらどう答えるかなどを、日頃から取り組んでいく必要がある。
- 質問に答えられるように選択肢を提示したり、声が小さい生徒が発表するときには環境を整える(暖房等の機械音の調整等)など、TT間の動きを再確認する。
- 生徒がより興味をもつような話題を提示し、積極的に聞いたり質問をしたりするような力を身に付けさせたい。
- 教師の必要以上の介入や先回りの支援にならないように、生徒自身または友達同士で気付けるような支援を目指す。例えば、声掛けの精選や声掛けの内容が繰り返しにならないようにする。

(2) まとめ

授業に取り組むにあたって児童生徒の実態や目指す姿、身に付けたい力をまとめ、学部毎の職員間で共通理解をすることができた。ハピきらでは「さぎょう」「すりっぱーず」、みなトモでは「朝の会・みなトモ集会」を研究授業として取り上げ、小学部段階では、協力して活動することや人の役に立つ喜びを感じることを、最後まで取り組む達成感を味わう機会を設定していきたいという意見が出た一方で、中学部段階では、話す態度や聞く態度を身に付けたり、普段から感謝の気持ちなどを表現する姿勢を身に付けたいなどの意見があった。そのような意見を踏まえて、次年度は今年度の流れを再確認した上で、ハピきら、みなトモでより情報交換を重ねてよりよい授業づくりにつなげていきたい。